

# “雪原を歩こう！”

## 松之山温泉スキー場で 「スノーハイク」試乗会



滑走面が加工された140cmという短めのスキー板を履いて、雪上を自由に歩き、登り、滑る新感覚のウインタースポーツ「スノーハイク」の試乗会が2月24日(祝)、松之山温泉スキー場スノーパークで開かれた。

「長靴で遊べるスキー場」をコンセプトに、手ぶらで楽しめるスノーアクティビティの一つとして同スキー場が今シーズン導入したのがこの「スノーハイク」。専用の靴は不要で、スノーブーツ、スノボブーツ、登山靴(柔らかいゴム長靴は不可)で、靴のサイズは20

cm(30cm)に対応する。雪上歩行用具のスノーシューに比べると、板を滑らせながら歩けるので疲労感も少ない。また滑走面は、うるこ状のステップソールやクライミングスキンという加工によって逆滑りしないので、軽度な斜面は真つ直ぐ登ることができる。スノー



「スノーハイク」を紹介する支配人の村山英明さん(上)。かかとうが上がり、すり足で滑るように前進できる(左)。

シューとスキーの良いところだけを併せ持つ雪原ハイキング用具として、約20年ほど前に日本で開発されたもの。

活用例では、スノーハイクツアー、ヘルスツーリズムなど観光や健康増進。仕事の道具として、電力会社の雪上点検作業、狩猟のための移動道具、冬の動物観察などに利用されている。

支配人の村山英明さんは「どう運用していくかは、まだこれからだが、新しい冬の遊び道具としてどんなことができるか探って行きたい。キャンプ場利用者に向けたプランもいいかもしれないし、スキー、スノーボードをしない人もスキー場で遊べるアイテムとして展開して行きたい」と構想を膨らませていた。